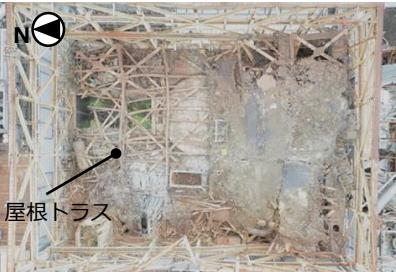
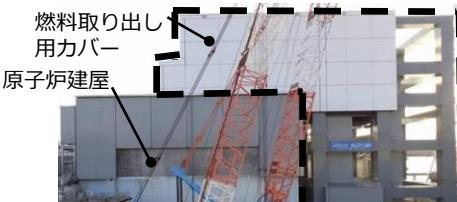
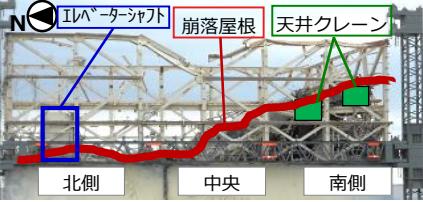
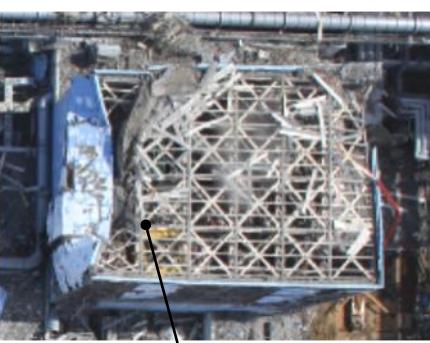
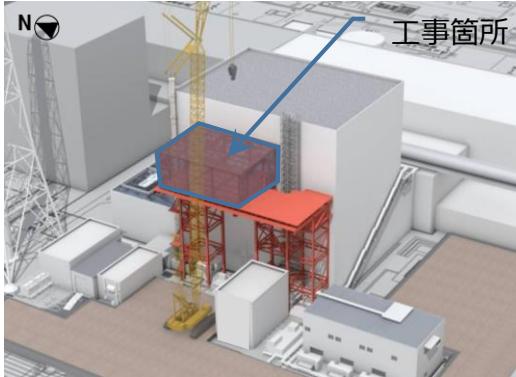
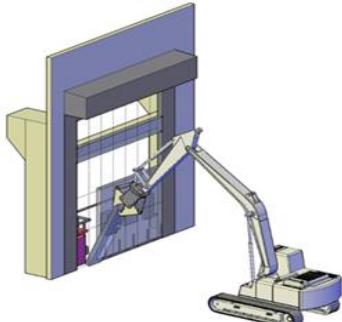
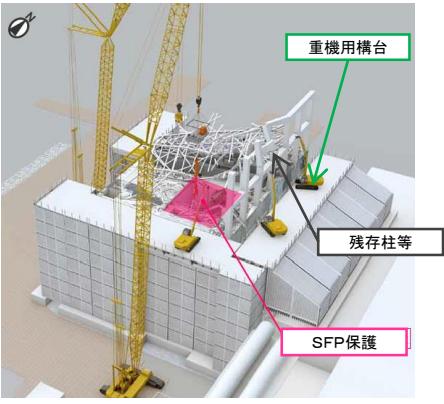


		1号機	2号機	3号機	4号機
燃料取り出し開始		2023年度目途	2023年度目途	2018年度中頃	2013年11月
使用済燃料		392体	615体	566体	1535体
電気出力(万kW)		46.0	78.4	78.4	78.4
原子炉建屋	平面形状	約42m×約42m(1階) 約42m×約31m(ハレディングフロア)	約46m×約56m(1階) 約46m×34m(ハレディングフロア)	同左	同左
	構造(ハレディングフロア)	屋根スラブ:鉄筋コンクリート造 屋根トラス:鉄骨造	同左	同左	同左
	柱・梁・壁	鉄骨造+パネル	鉄筋コンクリート造	同左	同左
状況写真	現状	 <p>屋根トラス</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年1月 北側ガレキ撤去着手 	 <ul style="list-style-type: none"> 2018年4月 西側開口作業着手 	 <ul style="list-style-type: none"> 2018年2月 ドーム屋根設置完了 現在、燃料取扱設備等の試運転実施中 	 <p>燃料取り出し用カバー 原子炉建屋</p> <ul style="list-style-type: none"> 2013年11月 燃料取り出し用カバー設置完了 2014年12月 燃料取り出し完了
	震災直後の原子炉建屋上部の状況(ガレキの状況)	  	 <p>屋根スラブ</p> 	 <p>屋根トラス</p> 	 <p>屋根トラス</p> 
	屋根	<ul style="list-style-type: none"> 北側の屋根スラブは、ハレディングフロア(以下、オペフロ)上に、南側は天井クレーン(以下、天クレ)上に落下。屋根トラスはつながった状態 	<ul style="list-style-type: none"> 水素爆発は起こっておらず、建屋に損傷は無い 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根スラブは砕けオペフロ上に落下 屋根トラスは変形し、オペフロ上に落下 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根スラブは砕けオペフロ上に落下 屋根トラスは変形しつながった状態
	壁	<ul style="list-style-type: none"> 壁パネルが吹き飛んだ状態 		<ul style="list-style-type: none"> 吹き飛んだ状態 	<ul style="list-style-type: none"> 一部吹き飛んだ状態
設備	<ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料プール(以下、SFP)上に天クレ、燃料取扱機(以下、FHM)が存在 天クレは落下していない(一部変形、トリが傾斜) FHMは落下していない(脚部が一部変形) 	<ul style="list-style-type: none"> 天クレはオペフロ上に落下 FHMはSFP内に落下 		<ul style="list-style-type: none"> 天クレは落下していない(レールから外れてない) FHMは落下していない 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ウェルプラグがずれ浮いた状態 	—		—	

		1号機	2号機	3号機	4号機
ガレキ撤去計画	実施時期	2018年1月～	2018年4月～	2011年9月～2013年10月	2011年11月～2012年7月
	作業方法	遠隔	遠隔（一部有人）	遠隔	有人
	ガレキ撤去工法	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ線量が高いため、大型クレーンに吊り下げた装置を用い、遠隔操作により撤去  <ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ、ダスト飛散の少ない工法を採用 崩落した屋根を、上から順に撤去 砕けた屋根スラブは、吸引装置で吸引 デッキプレート等は、ペンチを用い、把持し撤去 鉄骨はカッター等で切断し撤去   <p>吸引装置 ペンチ</p>	<p>水素爆発が起こっておらず、現在燃料取り出しへ向けての準備として、原子炉建屋西側外壁開口工事を実施中</p>  <p>工事箇所</p>  <p>壁開口作業イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ線量が高いため、大型クレーンに吊り下げた装置および解体重機を用い、遠隔操作により撤去  <ul style="list-style-type: none"> ガレキはオペフロ上に堆積しており、油圧フォークやグラブバケット等で一度に大量に集積し撤去 鉄骨はベンチ・カッター等を用いて切断し撤去 建屋周囲に解体重機用構台を設置し残存柱等を解体・撤去  <p>油圧ベンチ</p>  <p>作業状況（北西側）</p>  <p>油圧フォーク</p>  <p>グラブバケット</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1～3号機と比較し、オペフロ線量が低かったため、大型解体重機を用い、有人作業で、屋根トラス、壁、オペフロ上のガレキを撤去    <p>PCVヘッド</p>
	飛散抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ対策強化 オペフロ全面に飛散防止剤（1/10希釈）を1回/月の頻度で散布 作業後に撤去範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 防風フェンスを設置 万一のダスト飛散に備え、散水設備設置 	<ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ、西側外壁開口工事でも以下の対策を実施 作業前と後に、作業範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前に作業範囲に対し、飛散防止剤（1/100希釈）を散布 <p style="text-align: center;">↓ ダスト飛散事象発生（2013年8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業前と後に、作業範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 	<ul style="list-style-type: none"> 有人でSFP保護を実施 残存した壁・柱に対し、飛散防止剤を、前日に原液で、作業前に1/10希釈で散布 オペフロ上のガレキに対しては散布なし
ダストの監視体制	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ周囲（6点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> 作業エリア周囲（4点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> ダスト飛散事象発生時、オペフロ周囲での監視なし 事象発生後、オペフロ周囲（4点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ周囲での監視なし 	